

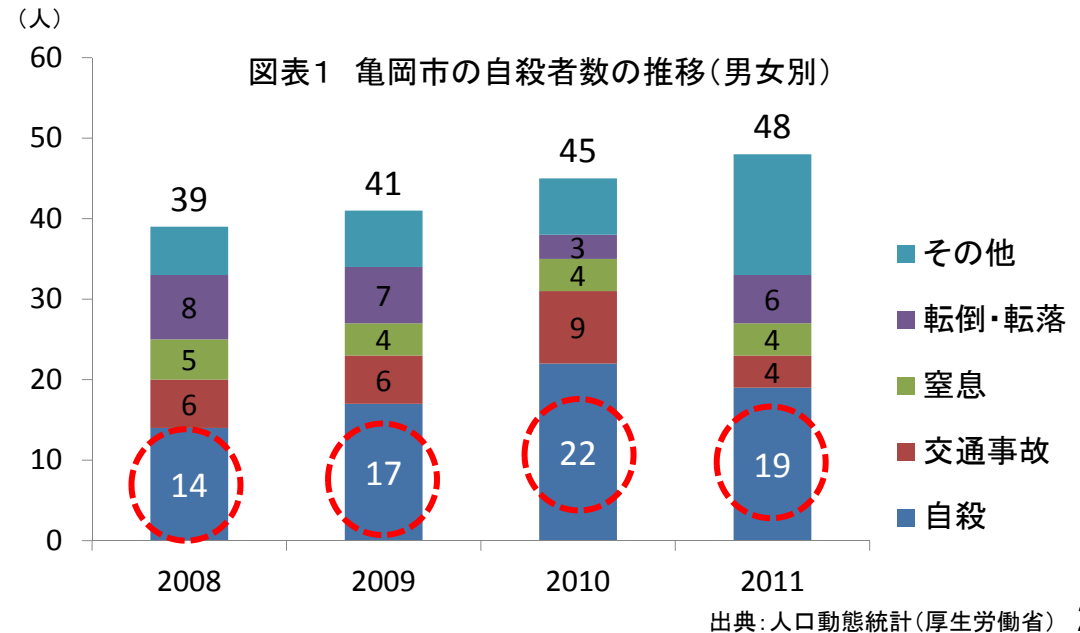
自殺対策委員会

発表日 平成30年7月3日
 発表者 自殺対策委員会 委員長 松田 美枝
 副委員長 浅井 健
 委員 秋山 龍作
 山西 明美

自殺対策委員会構成

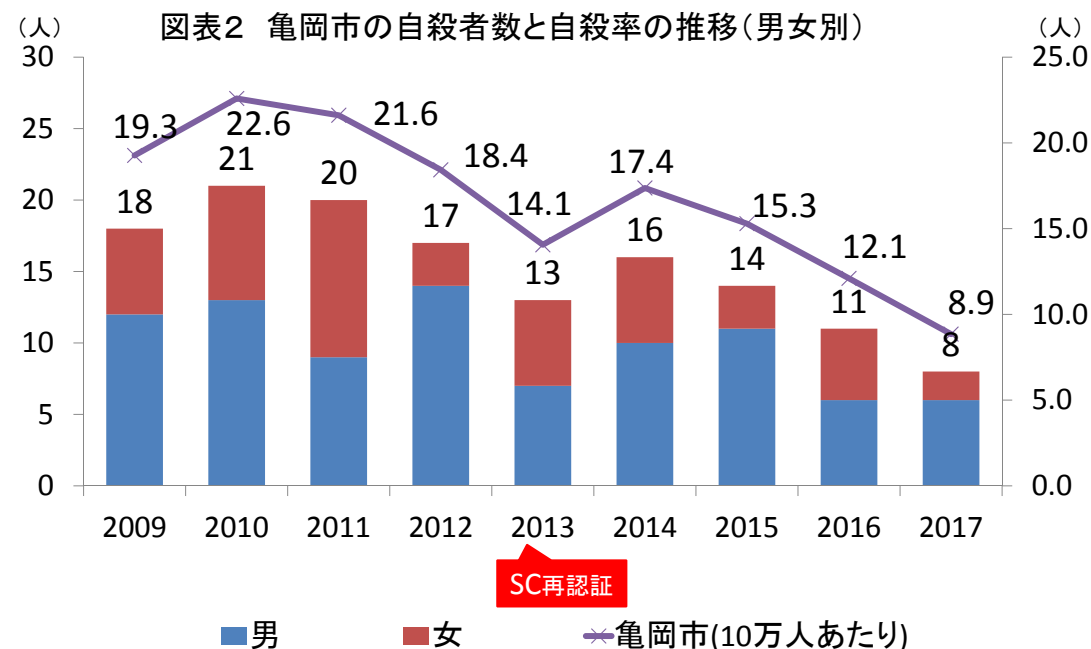
区 分	所 属 団 体
市民団体等	1 亀岡市民生員児童委員協議会
関係機関等	2 京都文教大学 臨床心理学部
	3 亀岡市医師会
	4 亀岡市薬剤師会 NEW
	5 京都司法書士会
	6 亀岡市障害者相談支援センター「お結び」 NEW
	7 亀岡市生活相談支援センター NEW
	8 亀岡市地域包括支援センター
	9 亀岡市社会福祉協議会 NEW
行政関係	10 亀岡警察署
	11 京都府南丹保健所
	12 亀岡市地域福祉課
	13 亀岡市障害福祉課
	14 亀岡市健康増進課
	15 亀岡市市民課
	16 亀岡市自治防災課

2011年「自殺対策委員会」を設置 理由「外傷による死亡原因は自殺が最も多い」



1

亀岡市の自殺者数

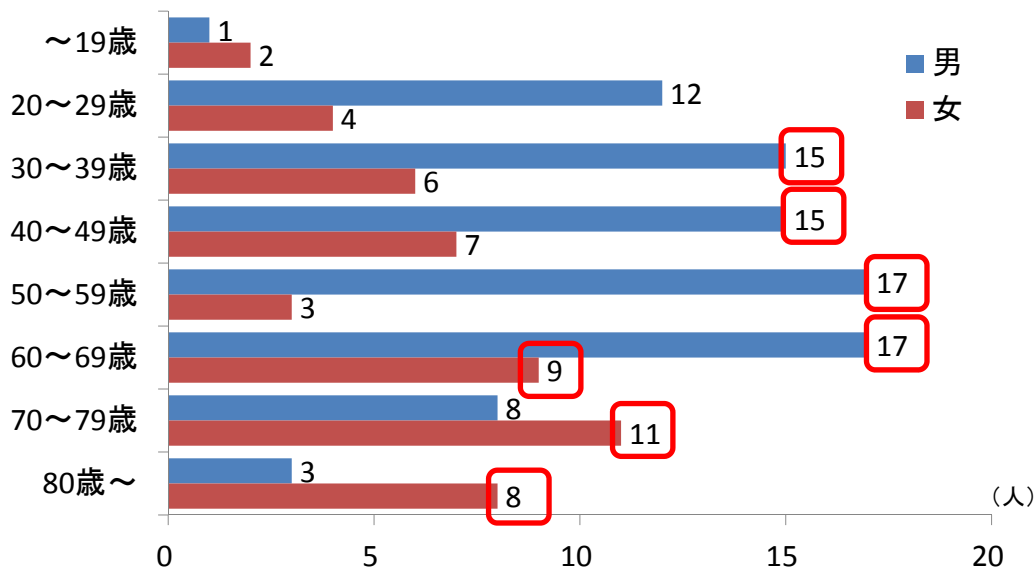


3

4

亀岡市の自殺者数(年齢別)

図表3 亀岡市の自殺者数(年齢別)



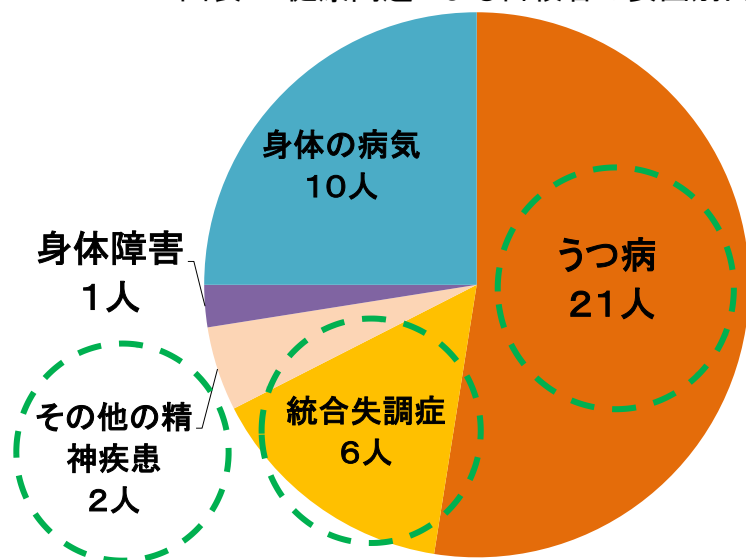
出典:自殺統計(厚生労働省)2009～2017年

5

データに基づく客観的課題(継続)

「精神的な疾患による自殺者が多い」

図表5 健康問題による自殺者の要因別内訳

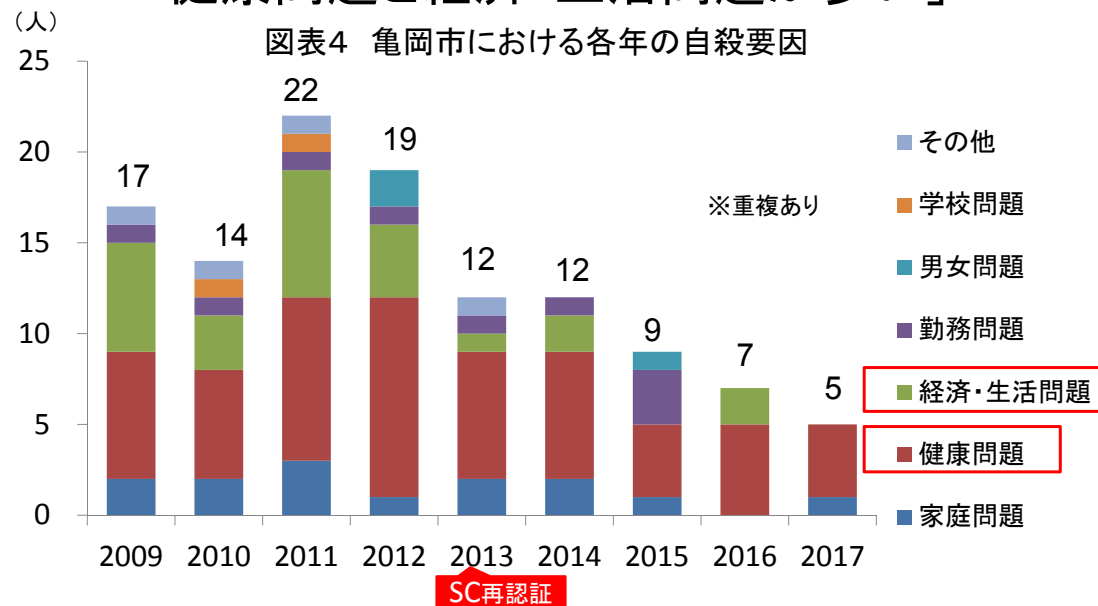


出典:自殺統計原票データ特別集計(厚生労働省)2009～2013年

7

データに基づく客観的課題(継続) 「健康問題と経済・生活問題が多い」

図表4 亀岡市における各年の自殺要因



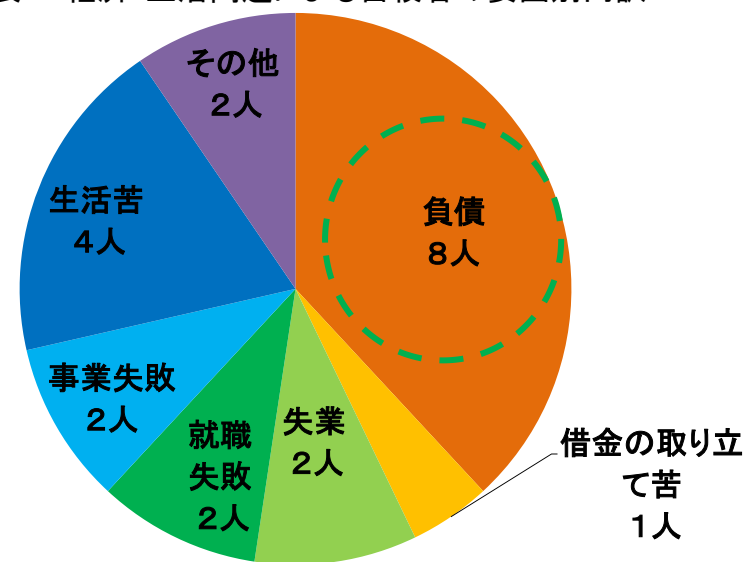
出典:自殺統計(厚生労働省)2009～2017年

6

データに基づく客観的課題(継続)

「経済的な問題による自殺者が多い」

図表6 経済・生活問題による自殺者の要因別内訳

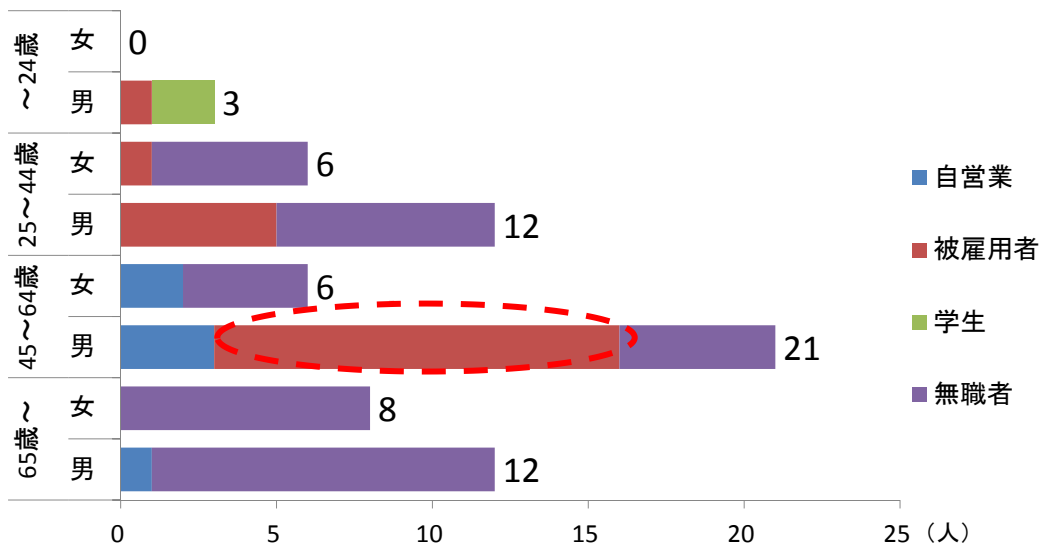


出典:自殺統計原票データ特別集計(厚生労働省)2009～2013年

8

データに基づく客観的課題(新規) 「40歳～60歳代男性の勤労者の自殺が多い」

図表7 年齢、性別、就業状況別にみた亀岡市の自殺者内訳



出典：自殺統計原票データ特別集計(厚生労働省)2012～2016年

9

主観的・客観的課題の整理

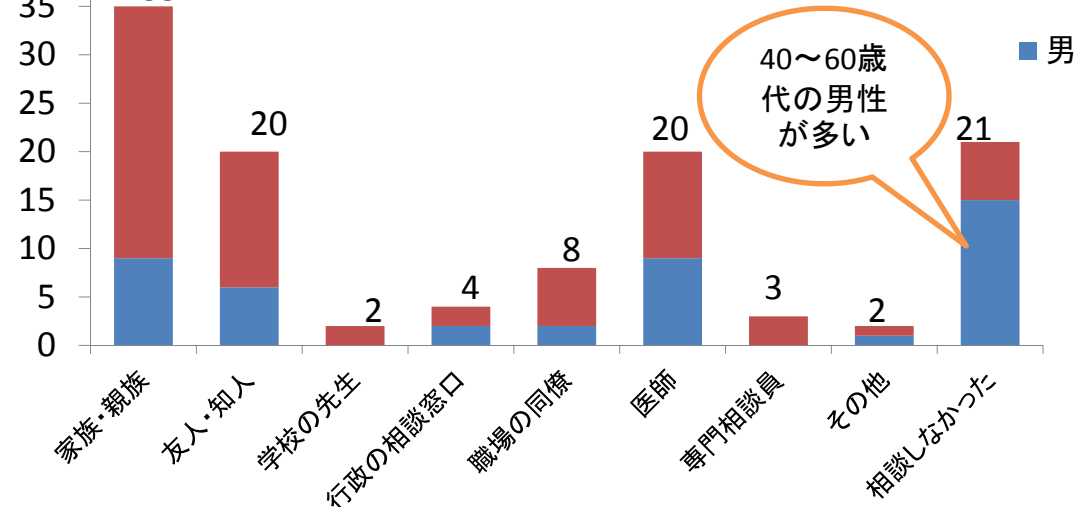
データに基づくもの	経験に基づくもの
・(継)健康問題(精神的な疾患)による自殺者が多い(図表5) ・(継)経済的な問題による自殺者が多い(図表6) ・(新)40歳～60歳代男性の勤労者の自殺が多い(図表7) ・(新)相談窓口の利用者が少ない(特に40～60歳代の男性)(図表8)	・(新)悩みを抱える人に情報が十分に届いていない ・(新)どこに相談すればいいかわからない ・(新)自殺への関心が低い (自殺対策委員会意見)

重点課題の設定

11

データに基づく客観的課題(新規) 「相談窓口の利用者が少ない」

図表8 悩みを抱える人の相談先



出典：セーフコミュニティアンケート(亀岡市)2016年

10

課題解決のための方向性と対策

課 題	方 向 性	対 策
・(継)精神的な疾患による自殺者が多い	精神的な疾患を抱える市民の相談	① 精神保健福祉支援を中心とした自殺防止・孤立防止への相談対応プログラム
・(継)経済的な問題による自殺者が多い	多重債務等、生活の諸問題の相談	② 生活困窮者支援プログラム
・(新)40歳～60歳代男性の勤労者の自殺が多い ・(新)相談窓口の利用者が少ない ・(新)悩みを抱える人に情報が十分に届いていない ・(新)どこに相談していいかわからない。 ・(新)自殺への関心が低い	相談窓口の周知	③ 相談窓口啓発プログラム(新規)

12

レベル別の対策

別添資料を
御覧ください

13

プログラムの運営状況

	進行状況					計画
	2013	2014	2015	2016	2017	2018
①精神保健福祉支援を中心とした自殺防止・孤立防止への相談対応プログラム(継続)	継続 (対象拡大)					
②生活困窮者支援プログラム(継続)	継続 (対象拡大)					
③相談窓口啓発プログラム(新規)			新規			

15

レベル別対策の事例紹介

24時間対応可能な相談窓口の設置

時間を気にすることなく、
いつでもどこでも相談できる環境の整備

よりそいホットライン

京都いのちの電話

14

①精神保健福祉支援を中心とした自殺防止・孤立防止への相談対応プログラム(継続)

課 題	精神的な疾患による自殺者が多い	
目 標	精神的な疾患による自殺者を減らす	
内容等	【内容】	精神的な疾患を抱える市民に対して通院の同行、電話相談、面接相談等を行い、早期治療を促進する。社会的孤立防止対策による地域福祉支援員による相談支援対応含む。
	【対象】	精神的な疾患等の課題を抱える市民
(短・中期) 態度や行動の変化	【指標】 支援実施数	【測定】 活動報告書
(長期) 状態や状況の変化	【指標】 精神的疾患等健康問題による自殺者数	【測定】 警察統計

16

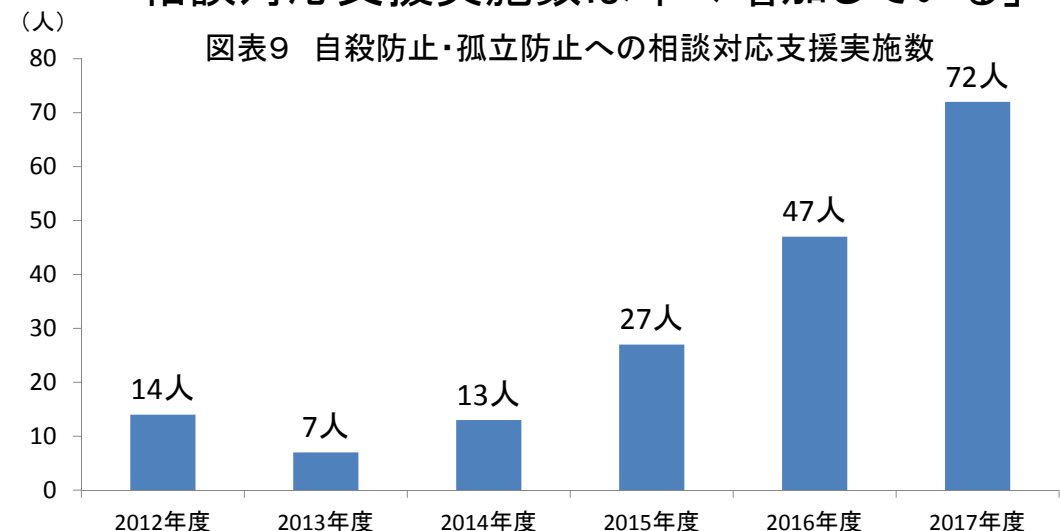
プログラムの活動実績

	実 績					対策委員会の関わり
	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	
支援回数	1,222 回	1,076 回	1,304 回	1,340 回	1,668 回	委員会にて相談結果の報告及び情報共有

プログラム評価結果（短期・中期）

「相談対応支援実施数は年々増加している」

図表9 自殺防止・孤立防止への相談対応支援実施数



地域福祉支援員による相談対応支援を含む

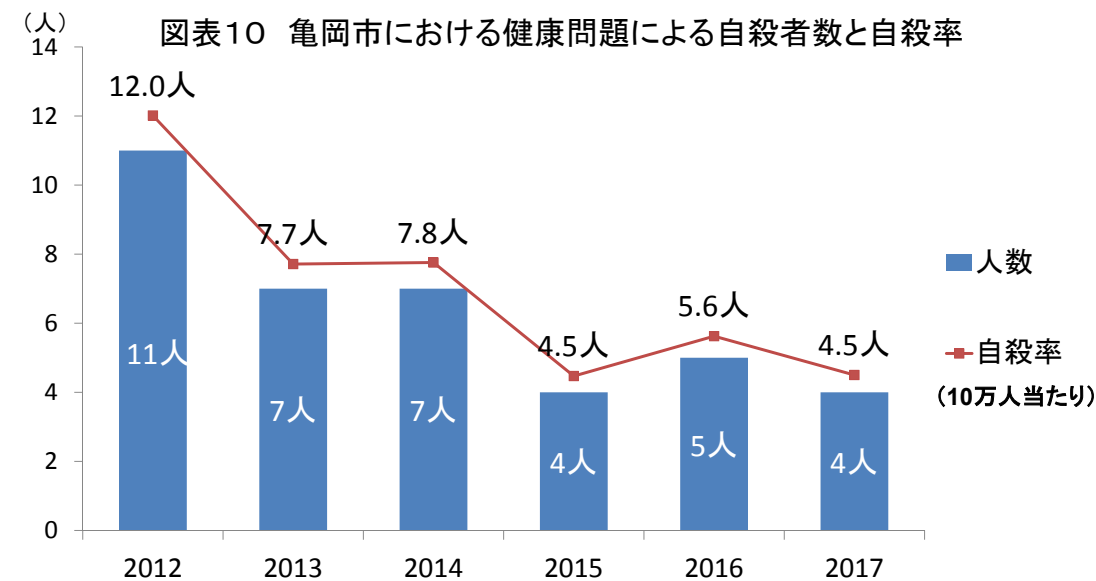
出典：（亀岡市地域福祉課）2012～2017年

17

プログラム評価結果（長期）

「健康問題による自殺者数は年々減少している」

図表10 亀岡市における健康問題による自殺者数と自殺率



SC再認証

出典：自殺統計（厚生労働省）2012～2017年

19

②生活困窮者支援プログラム（継続）

課 題	経済的な問題による自殺者が多い	
目 標	経済的な問題による自殺者を減らす	
内容等	【内容】	庁内の公共料金徴収部門や司法書士会との連携により、早期に経済的生活再建を図る。 生活相談支援センターと連携し、生活困窮者の相談支援を実施する。
	【対象】	多重債務等経済的な問題を抱える市民
（短・中期） 態度や行動の 変化	【指標】 多重債務相談者数・支援利用者数 生活困窮新規相談受付件数	【測定】 活動報告書
（長期） 状態や状況の 変化	【指標】 多重債務支援終了者数 生活困窮者支援終了件数 経済的理由による自殺者数	【測定】 活動報告書 警察統計

20

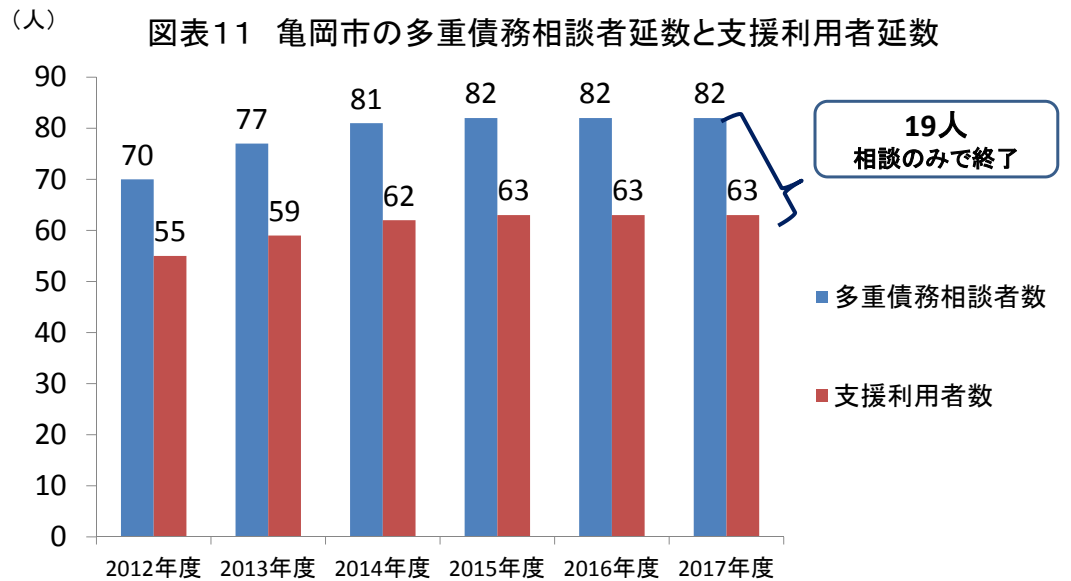
プログラムの活動実績

	実 績					対策委員会の関わり
	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	
多重債務相談者数	延77人	延81人	継続 延82人	延82人	延82人	委員会にて相談結果の報告及び情報共有
生活困窮相談件数		新規 92件	141件	125件	152件	

21

プログラム評価結果(短期)

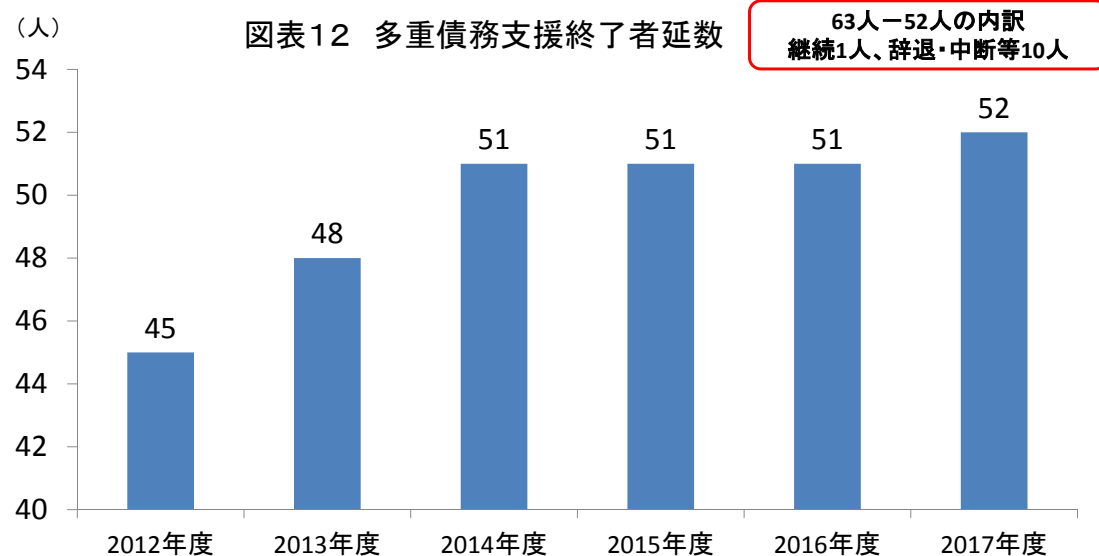
「支援希望者が全てプログラムに繋がっている」



出典: 亀岡市地域福祉課(2012~2017年) 22

プログラム評価結果(中期)

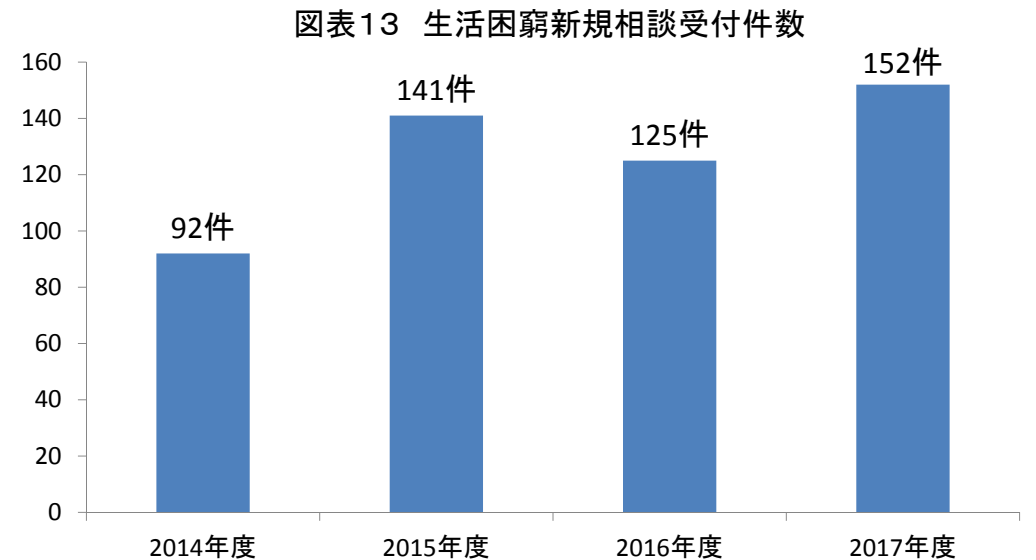
「多重債務問題の解決には関係機関の連携が重要」



出典: 亀岡市地域福祉課(2012~2017年) 23

プログラム評価結果(短期)

「2015年以降は相談件数が増加している」

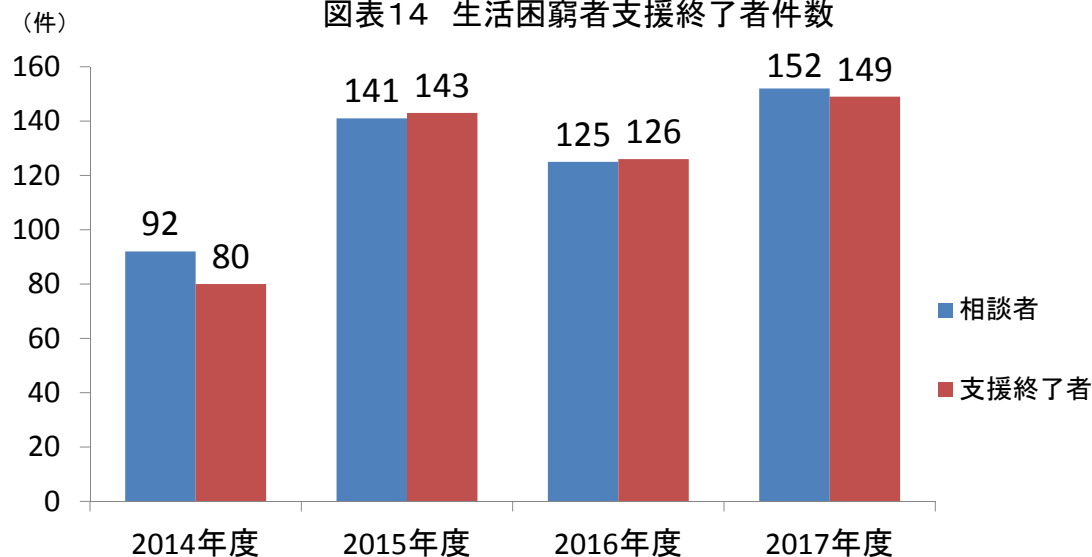


出典: 亀岡市地域福祉課(2014~2017年) 24

プログラム評価結果(中期)

「ほぼ全ての相談者は支援を終了している」

図表14 生活困窮者支援終了者件数

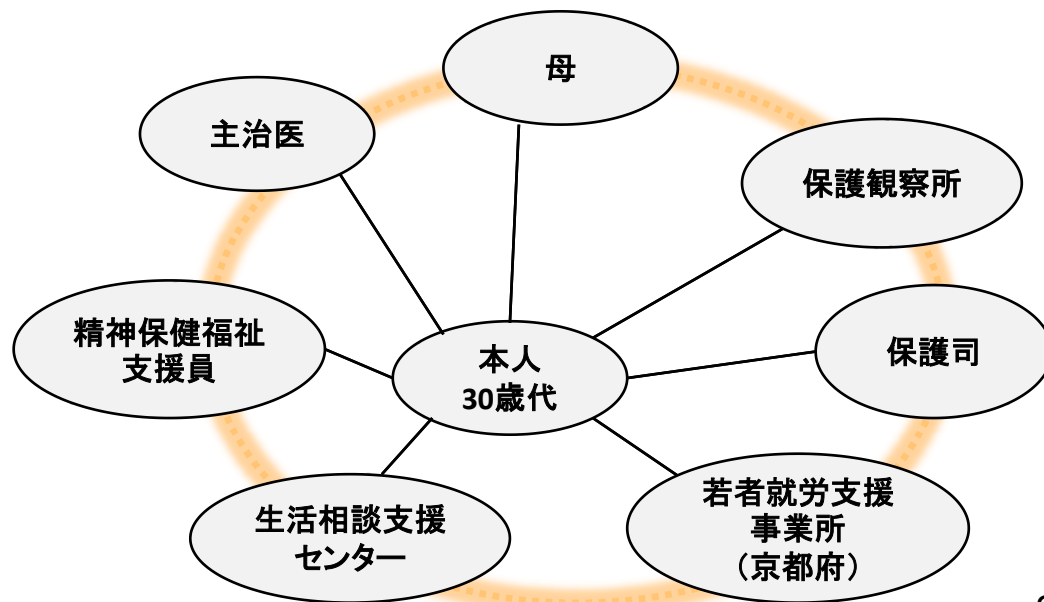


出典: 亀岡市地域福祉課(2014~2017年)

25

生活困窮者支援プログラムの活動状況

「事例(精神問題・経済問題・ひきこもり)」

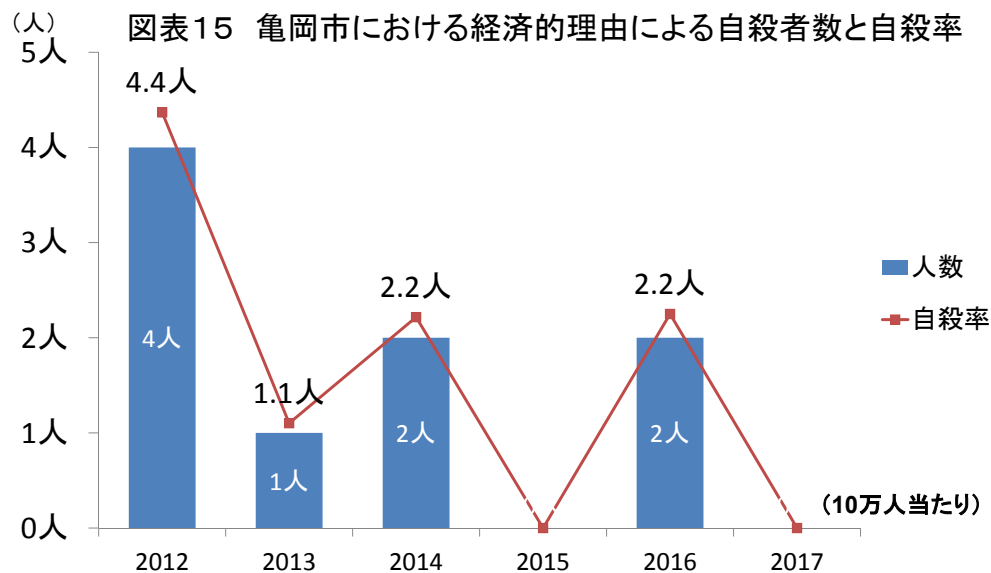


26

プログラム評価結果(長期)

「経済的理由による自殺者は少数で推移している」

図表15 亀岡市における経済的理由による自殺者数と自殺率



SC再認証

出典: 自殺統計(厚生労働省)

27

③相談窓口啓発プログラム(新規)

課 題	悩みを抱えている人に情報が十分に届いていない	
目 標	悩みを抱える市民に相談窓口の情報を伝える	
内容等	【内容】	街頭啓発、企業へのアンケート及び啓発チラシの配布、図書館、各イベント等での広報、掲示、啓発 ゲートキーパー養成講座 「こころの体温計」
	【対象】	悩みを抱える市民
(短・中期) 態度や行動の変化	【指標】	各制度等利用者数 相談窓口利用者数
	【測定】	活動報告書
(長期) 状態や状況の変化	【指標】	自殺率の推移
	【測定】	警察統計

28

相談窓口啓発プログラムの活動状況

(1) 街頭啓発



自殺対策委員会メンバーが、啓発ちらしやティッシュを配布(市内大型店舗)

29

相談窓口啓発プログラムの活動状況

(3) ゲートキーパー養成講座



研修の内容や対象者を対策委員会で検討

31

相談窓口啓発プログラムの活動状況

(2) イベント啓発



配布パンフレットの内容を自殺対策委員会で検討

市民対象のイベント時に広報啓発活動を実施

30

相談窓口啓発プログラムの活動状況

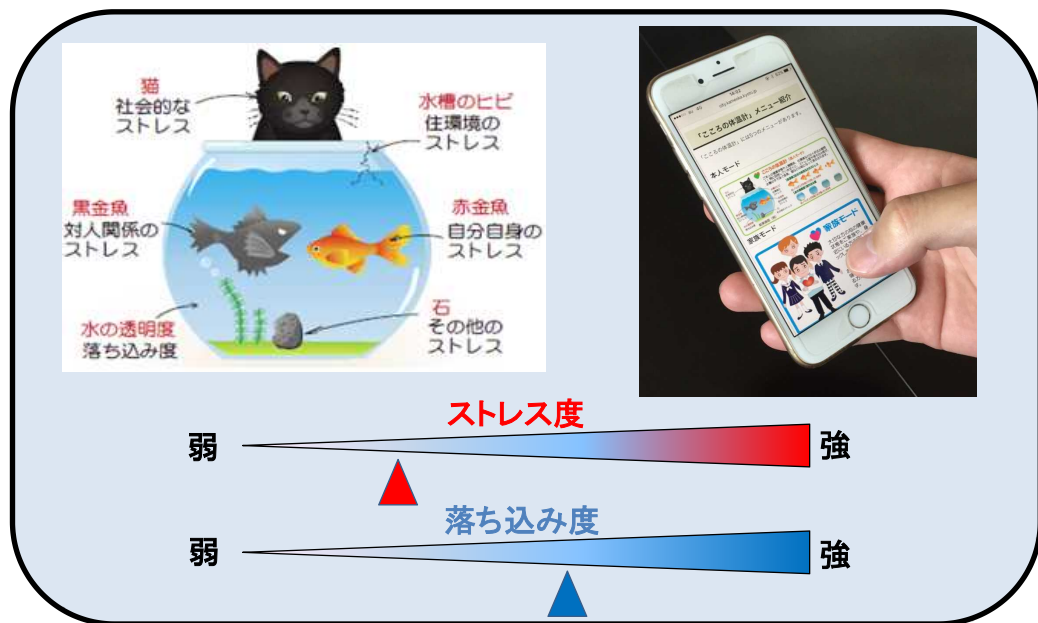
(3) ゲートキーパー養成講座



亀岡市役所の職員108人が受講

32

相談窓口啓発プログラムの活動状況 (4)こころの体温計



33

相談窓口啓発プログラムの活動状況 (5)企業啓発

2016年に対策委員会企画の企業アンケートを実施



2015年から
亀岡市内の様々な企業に相談窓口等のチラシを配布開始

2017年12月
企業アンケートで先進的な回答
のあった市内企業に取材。

↓
企業啓発パンフレットの作成



35

相談窓口啓発プログラムの活動状況 「こころの体温計」体験コーナー

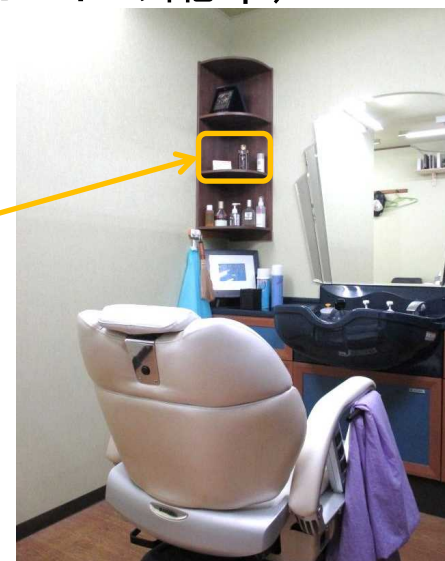
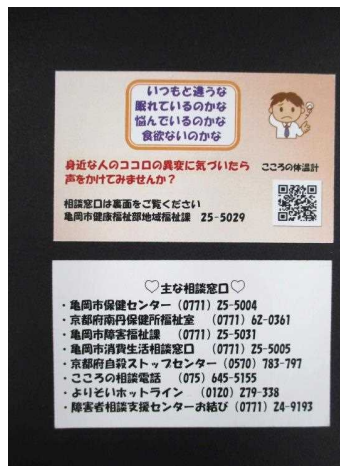


配布パンフレット等の内容を自殺対策委員会で検討

市民対象のイベント時に体験してもらう

34

相談窓口啓発プログラムの活動状況 (相談カードの配布)



相談カードを社会福祉施設窓口や理美容院等に設置
(2017年～行政窓口他に拡大)

36

プログラムの活動実績

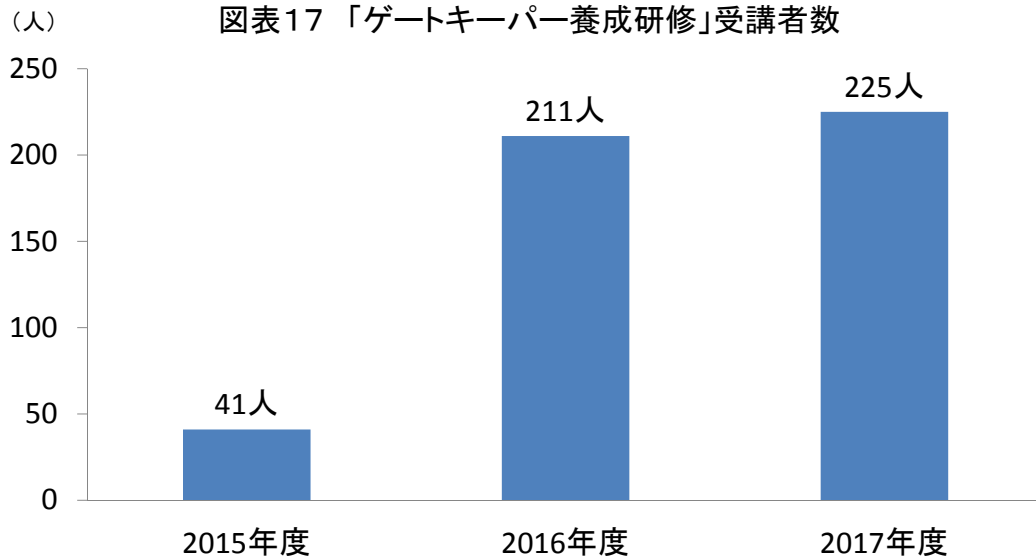
	実 績			対策委員会の関わり
	2015 年度	2016 年度	2017 年度	
(1)街頭啓発	新規 3か所 1,500 セット	4か所 1,600 セット	4か所 1,200 セット	街頭啓発に参加し、啓発チ ラシを配布
(2)イベント啓発	2回	3回	3回	チラシ内容の検討
(3)ゲートキーパー養成講 座	41人	211人	225人	講座内容、講座対象者の 検討
(4)こころの体温計利用者 数	10,780人	11,144人	12,897人	チラシ内容の検討
(5)企業啓発	3か所	66か所	8か所	チラシ、アンケート内容の 検討

37

プログラム評価結果(短期)

「ゲートキーパー養成講座の受講者は増加している」

図表17 「ゲートキーパー養成研修」受講者数



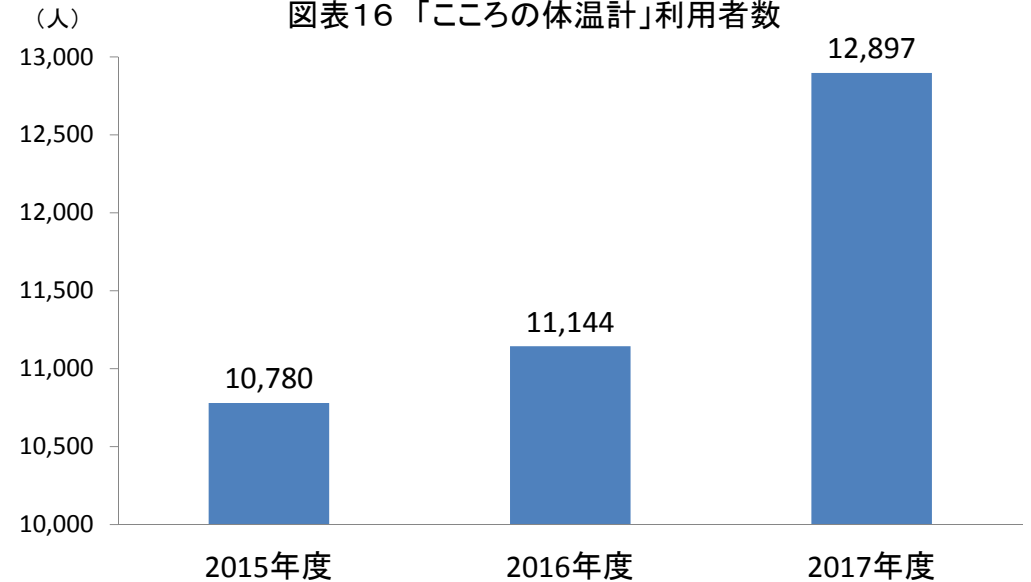
出典: 亀岡市地域福祉課

39

プログラム評価結果(短期)

「こころの体温計利用者数は増加している」

図表16 「こころの体温計」利用者数



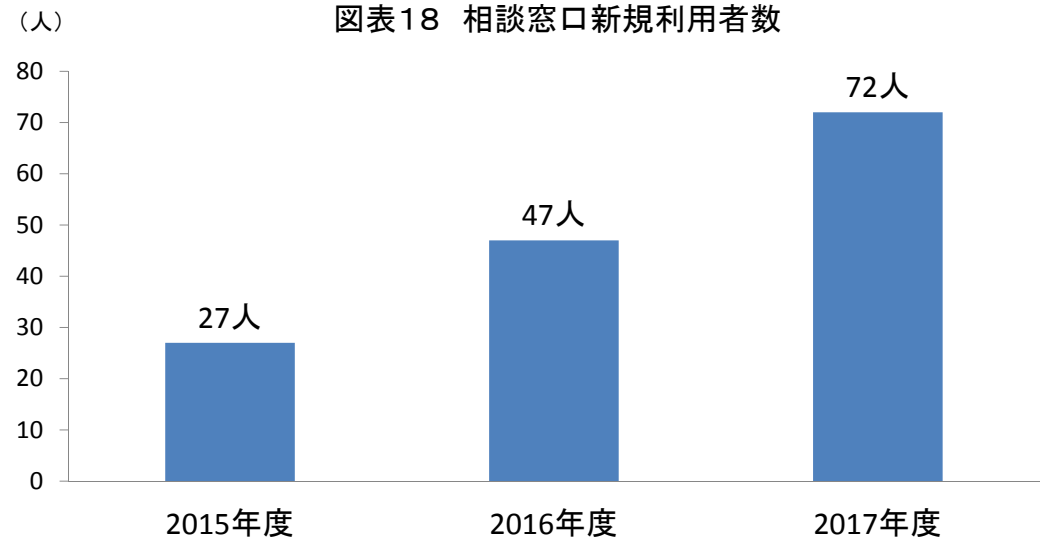
出典: こころの体温計アクセス報告(エフ・ピー・アイ)

38

プログラム評価結果(中期)

「相談窓口の利用者数は増加している」

図表18 相談窓口新規利用者数

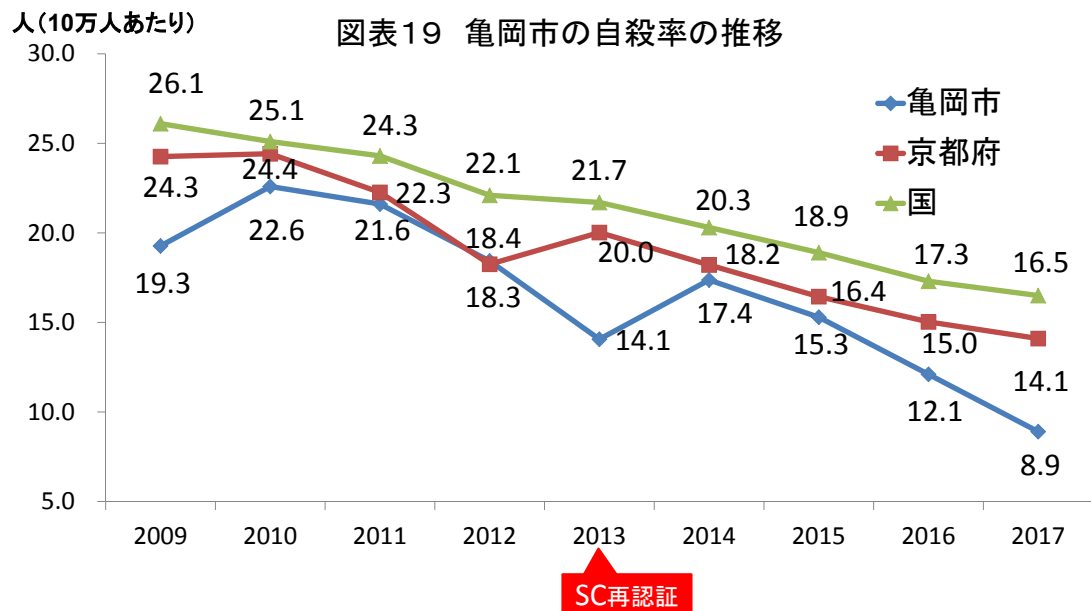


出典: 亀岡市地域福祉課

40

プログラム評価結果(長期)

「亀岡市の自殺率は、国、府に比べて下回っている」



出典:自殺統計(厚生労働省)2009~2017年 41

気付きや変化

- 市内・府内の様々な機関が連携して、一次予防から三次予防まで、縦横に対策を張り巡らせる「総合対策」を取ってきたことが、自殺者の減少につながった。
- データを活用することで、根拠に基づいた取り組みにつなげることができた。

特記事項

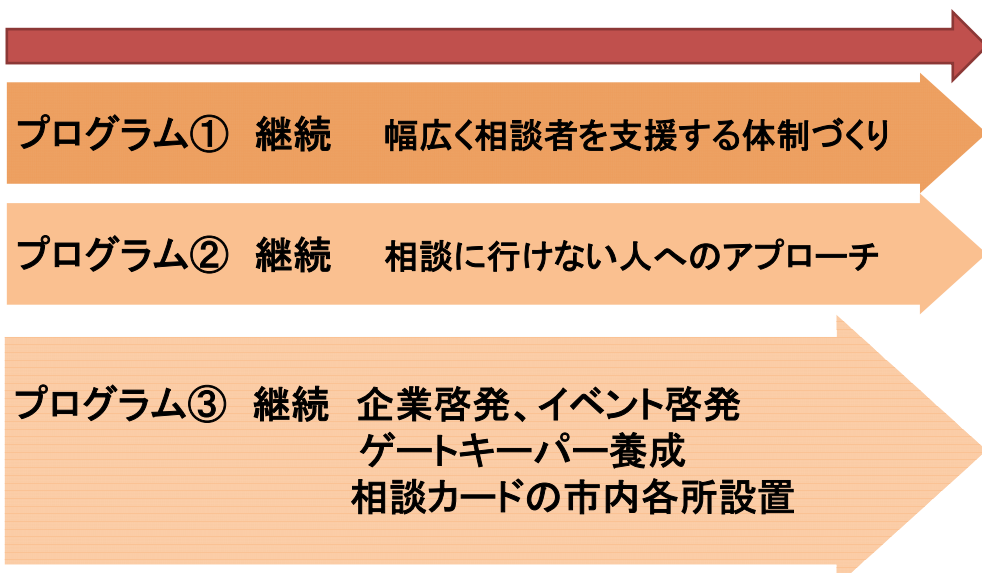
ワーキンググループの設置



現在の課題

- 経済的な問題については、生活困窮者も含めた幅広い支援が必要である。
- 企業の勤労者への啓発が必要である。
- ゲートキーパーの養成をすすめる必要がある。
- 相談窓口のさらなる啓発・周知が必要である。

今後の計画



プログラム① 継続 幅広く相談者を支援する体制づくり

プログラム② 継続 相談に行けない人へのアプローチ

プログラム③ 継続 企業啓発、イベント啓発
ゲートキーパー養成
相談カードの市内各所設置